コラム 4

災害をきっかけに始まったこども食堂

愛媛県 特定非営利活動法人 U.grandma Japan ／ 代表理事 松島 陽子

「平成30年7月豪雨」で大規模な土砂災害に見舞われた愛媛県宇和島市吉田町。発災翌日から有志による炊き出しが行われましたが、地域にばらつきが見られました。そこで私たちは、行政や炊き出し依頼ができる飲食店（食品衛生の観点から飲食店に依頼することがベストと判断）とSNSでグループを組み、炊き出し希望が出ている地区と共有し、変化する状況把握を行いながら、必要とする地域への配食を計画しました。いわゆる炊き出しとして、野外や避難所での食事提供ではなく、弁当の配送という形を取りました。また、炊き出しの準備ができ次第、行政から防災無線で呼びかけし、できるだけ多くの住民に情報が行き渡るよう配慮しました。

炊き出しを受けた人は、温かい食事と集まることで生まれる会話に心が救われたと話していました。また、避難所生活が続く中、自立へ向けての支援として避難者と一緒に食事を作ったりもしました。ボランティアセンターや避難所が閉鎖した後も、不定期ながら、避難所にいたお母さんたちと協力し、土曜日、塾に通う子どもや、地域の人々のおしゃべりの場として、移動こども食堂を開催しました。

このような取り組みからコミュニティの場が必要だと思い、昨年の春からグランマの地元の小学校区で月１回のこども食堂を始めました。こども食堂が炊き出し拠点、地域の拠点になれば平時から地域の人々との関係が作られているため、より安全にスピード感を持って有事の際に支援することができます。行政と住民とこども食堂が繋がることで、災害時には大きな力を発揮できる場所になると思います。

炊き出し用に飲食店に作っていただいたお弁当

炊き出しに並ぶ長蛇の列